

令和6年12月5日
(2024年)

保護者のみなさまへ

吹田市立北山田小学校
校長 福井将人

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度も6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しています。

本調査は小学校の最終学年を対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られています。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に努めることが、調査の目的です。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体としても課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善に取り組んでまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の結果分析

●国語

《概要》

◎国語全体の正答率は全国値を上回っている。

- ・問題単位では、14問中13問が全国値を上回っている、あるいはやや上回っている。
- ・無解答率は、14問中4問が全国値をやや上回っている。

《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・正答率は、すべての問題(4問)において全国値を上回っている、あるいはやや上回っている。
- ・漢字を文の中で正しく書く問題では、全国値との差が比較的小さい。

情報の扱い方に関する事項

- ・正答率は、(本領域の問題は1問のみ)全国値を上回っている。

話すこと・聞くこと

- ・正答率は、すべての問題(3問)において全国値を上回っている。

書くこと

- ・正答率は、すべての問題(2問)において全国値を上回っている、あるいはやや上回っている。
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国値をやや上回っているものの正答率は全問題の中で最も低い。

読むこと

- ・正答率は、3問中2問は、全国値を上回っている、あるいはやや上回っているものの、1問は全国値をやや下回っている。
- ・物語文を読んで、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる記述式の問題が全国値をやや下回っている。

《国語科における成果と今後の改善点について》

成果

- ・学習指導要領の内容区分「話すこと・聞くこと」にあたる問題での正答率は比較的高く、**全国値も上回っていた。**
- 本校が**学力向上の研究テーマを「対話を通じた学び合いの授業」に設定し、3年間取り組んできた成果**であると捉えている。**今後も一人ひとりが自分の考えを持ち、それをもとに対話を行い、学びを深められる授業づくりに努めていきたい。**

課題と今後の改善点

- ・無解答率が全国値をやや上回っている問題が4問あった。その内の1問は漢字を書く問題、その他は問題全体の最後の3問(12～14問目)であったことから、時間が足りず、解答できなかった児童もいることが推測される。また、その内の1問は、物語を読んで、心に残ったところとその理由を書く問題であり、「読むこと」領域の問題であるが、読解力以外に、条件に則して書く力も必要となる難易度の高い問題であった。そのため、全く書けない児童がいたものと考えられる。
- 「読むこと」に関しては、**物語文において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすることについて意識した授業づくりに努めていきたい。**
- また、「書くこと」に関しては、今年度から朝の学習で作文に取り組んでいる。本調査は4月に実施したことから、その成果はまだ表れていなかったと思われる。今後も朝の学習に継続して取り組むとともに、授業においても、**子どもの発達段階に応じて、理由や文字数など複数の条件を満たして文章を書くことができる力も育てていきたい。**

●算数

《概要》

◎算数全体の正答率は**全国値を上回っている。**

- ・14問すべての問題で全国値を上回っている。
- ・無解答率は全国の無回答率を下回っている、あるいはほぼ同じ。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・正答率は、すべての設問(6問)において全国値を上回っている、あるいはやや上回っている。
- ・問題場面の数量関係を捉え、その場面に該当する式を選ぶ問題や、 $350 \times 2 = 700$ を基に 350×16 の積の求め方と答えを書く問題の正答率は、全国値をやや上回っているものの低い。

図形

- ・正答率は、すべての設問(4問)において全国値を上回っている、あるいはやや上回っている。
- ・直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題の正答率は、全国値を上回っているものの低い。

変化と関係

- ・正答率は、すべての設問(3問)において全国値を上回っている、あるいはやや上回っている。
- ・家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題や家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書くことで速さの意味を理解しているかをみる問題の正答率は、全国値を上回っているものの低い。

データの活用

- ・正答率は、すべての設問(4問)において全国値を上回っている。
- ・折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題や、示された情報を基に、表から必要な情報を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断して答えを書く問題の正答率は、全国値を上回っているものの低い。

《算数科における成果と今後の改善点について》

成果

- ・「数と計算」領域において、数量の関係を口を用いた式に表す問題や、「データの活用」領域において、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題は正答率が非常に高かった。
- 対話を通した学び合いの授業に加え、授業時間では理解できなかった内容については、個別に休み時間や放課後に補充学習を行っていること等の成果として、知識・技能の定着が図られた結果であると考えられる。

課題と今後の改善点

- ・「数と計算」領域の問題では、1(2)のように文章に出てくる数値を順に式に当てはめていけばよいことや、「もらって」「全部で」という言葉と加法を機械的に結び付けている児童でも立式できることから、正答率が高くなっている。しかし、1(1)のように文章で書かれている場面を具体的にイメージしなければ演算決定できない問題では、全国値を上回っているものの、正答率は低い。
- 文章題については、言葉で書かれている問題の場면을具体的にイメージできるように図で表したり自分の言葉で説明したりする活動をとおして演算決定を行うというプロセスを授業で大切にしていきたい。
- ・式や数、算数用語を含む言葉を用いて説明する記述式の問題は4問あり、いずれも正答率は全国値を上回っている、あるいはやや上回っているが、正答率は非常に低いものもある。また、「図形」領域では、直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題は全国値を大きく上回るものの、正答率自体は低い。
- 授業では、対話を通した学び合いを大切にしているので、対話によって深まった思考を言葉(算数用語を含む)や数、式を用いて書く活動も積極的に取り入れていきたい。

2 学習状況に関する調査の結果分析および今後の改善点

児童質問紙では多くの質問項目において全国値よりも良好、あるいはほぼ同等の回答結果になっていましたが、一部で課題の見られる項目もありました。ここでは、今後の教育活動に生かすとともに、家庭における生活習慣や学習環境の参考としていただくため、各項目における本校の回答状況の中で特徴が見られた質問について取り上げ、分析内容を掲載しています。

●基本的な生活習慣等について

- ・朝食を食べているか、毎日同じくらいの時刻に寝ているか(起きているか)の各質問に対する肯定的回答率は、子どもたちの意識の向上とご家庭の協力の成果として、全国値を上回っている。
- ・普段、1日当たりどれくらいの時間ゲームをするか、また、SNSや動画を視聴するかという質問に対し、少ない時間を回答した割合は全国値を上回るとともに、長い時間を回答した割合は全国値を下回る結果となった。また、スマートフォン等の使い方について、家の人と約束したことを守っていると回答した割合も全国値を上回った。これは、デジタル・シティズンシップ教育を積み上げてきたことによる子どもたちの意識の向上と、保護者の協力の結果であると捉えている。

●挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるかという質問に対する肯定的回答率は、全国値を大きく上回っている。
- ・人の役に立つ人間になりたいか、人が困っている時は進んで助けているか、普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいあるかという質問に対して、「当てはまらない」「全くない」と回答したものがいなかった。多くの子どもたちが、日常生活で幸せを感じ、困っている人を助けたい、人の役にも立ちたいと願っているということが分かった。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うかという質問に対する肯定的回答率が全国値をやや上回るとともに、誰も「当てはまらない」と回答していないことから、4年間取り組んできた、いじめ予防授業の成果が表れていると捉えている。しかし、「どちらかといえば当てはまらない」と回答した子どもも一定数いることから、今後も授業で扱うエピソードを自分事として捉え、自分にできることについて深く考えることができる授業づくりを進めていきたい。

●学習習慣、学習環境等について

- ・学校の授業時間以外の勉強時間(塾や家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)は、平日、休日ともに全国値を上回っており、家庭等での学習習慣が身に付いている。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することができるかという質問に対する肯定的回答率は、全国値をやや上回るとともに、「できていない」と回答した子どもはいなかった。この結果から、学びに関して、多くの子どもが自己調整しながら取り組んでいることが分かった。

●地域や社会に関わる活動の状況等について

- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますかという質問に対する肯定的回答率が、全国値を大きく上回っている。地域行事に積極的に参加している子どもが比較的多いことから、自分の住んでいる地域を愛する気持ちが社会参画への意欲にもつながっていると考えられる。

●主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うかという質問に対する肯定的回答率は、全国値よりもやや下回っている。授業において、子どもの困っていることや分からないことを取り上げ、それをクラス全体で解釈したうえで対話を通して解決するというプロセスを大切にしたい授業づくりに取り組んでいきたい。

●総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳について

・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるかという質問に対する肯定的回答率は、全国値を下回っている。課題を設定し、必要な情報を収集・整理・分析して解決していく探究的な学習のプロセスを自ら回していけるようにすることは、予測困難な社会を生きていく上で必要不可欠な力であることから、総合的な学習の時間を中心により一層意識して取り組んでいきたい。

・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますかという質問に対する肯定的回答率は、全国値を下回っている。道徳科は、よりよく生きるため、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めることが大切であり、そのためには、対話を通して他者の考えに触れる必要があることから、その視点で道徳の授業づくりをより一層充実させていきたい。

●学習に対する興味・関心や授業の理解度等

・英語の勉強は大切だと思うか、英語の授業の内容はよく分かるかという質問に対して「当てはまらない」と回答した割合が、全国値を上回っていた。今年度から英語専科の教員が配置され、AETとも丁寧に連携しながら授業づくりを進めているので、分かりやすい授業を心掛けるとともに、英語を学ぶことの意義についても子どもたちが実感できるような授業づくりにも努めたい。

3 今後の取り組み

教科に関する調査結果からは、国語、算数ともに自分の考えを書いて表現することに課題が見られました。このことを踏まえ、国語では、文章を読み取ったうえで自分の考えを形成し、根拠とともに書いて表現するという取り組みを、また、算数では、問題場面を図も用いながら子どもが具体的にイメージできるようにしたうえで演算決定することも含め、自分の考えを数や式、言葉を用いて書き表す取り組みを発達段階に応じて積み重ねていきます。

また、国語、算数ともに「(教科)の勉強は好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」や「大切だと思いますか」「学習したことは将来役に立つと思いますか」の質問は概ね全国値を上回っていましたが、「好きですか(算数)」や「よく分かりますか(国語)」については、全国値をやや下回っていました。この結果を踏まえ、国語や算数の学習が子どもたちにとって魅力的かつ分かりやすいものとなるよう、子どもたちが自ら問いをもち、対話を通して学びを深められる授業づくりを進めていきます。また、その中で、各教科ならではの見方・考え方が身に付き、子ども自らが成長を実感できるように努めていきますので、今後も本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。